

☆☆☆ Library Eye 2022 ☆☆☆

第26号 2022年5月1日(日)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



【「文学」「哲学」「アート」こそ VUCA 時代の「三種の神器」】

国立国会図書館のカウンターの上には「H AΛΘΕΙΑ ΕΛΕΥΘΕΡΩΣ ΕΙ ΥΜΑΣ」というギリシア語の銘文が掲げられています。これは『新約聖書』ヨハネによる福音書の一文で「**真理はわれらを自由にする**」という意味です。《真理》とは、図書館で言えば読書によって得た《知》のこと。では、《自由》とは何でしょうか。

私たちは、もの心がついたときから人間関係に縛られ、数字(点数、偏差値)に追われ、長じては名誉・地位・給料に振りまわされといった具合に、つねにシステムティック(階層的・体系的)な生活を強いられています。このような世俗的なフレームワークから解放されることが《自由》ということなのです。

そして、**読書し、思索することによって初めて、この人生は何に価値を置くべきか、という自分だけのモノサシを手に入れることができる**のでしょう。

21世紀は、VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代と言われています。従来の偏差値教育によって育成された「偏差値エリート」は、極端なまでに単純化された位階システムに於いて「早く結果を出す」ことに於いては優秀でしょうが、今日の「正解」が必ずしも明日の「正解」とは言えない予測不能の時代にあってはむしろバランスを欠いた存在となりかねません。それは、急激な変化に揺れるグローバル社会では「不条理」と「非合理」が混在していて、彼らが最も得意とする論理的・理性的な情報処理スキルだけでは解決できないほど、まさに「グローバル」だからです。

そこで、**21世紀型のエリートに求められるのが、「文学」「哲学」「アート」といった高い視座からのビジョン**なのです。特に、欧米では、古くから文系・理系を問わず「**哲学**」が最重要科目として位置付けられてきた、という経緯があります。その証拠にリベラルアーツの図の中心には、「**哲学の女神**」が鎮座ましましていでしょう。

次は、その「**哲学**」のチカラによって第一志望校に合格した生徒を、ご紹介致します。 (川辺)

【本科の生徒が、私学では日本最高峰の ICU に合格！】

「先生、合格しました!!!」

今年の2月14日、T君が、先生に真っ先に知らせたくて、とメガネを曇らせながら図書館に飛びこんできました。その大学とは早慶上理と並び称される難関大学の**ICU(国際基督教大学)**でした。しかも、T君は学校の特別講習にも頼らず、塾にも予備校にも通わず、独自の勉強法を展開して、一般入試を突破したので、アッパレ、と言うほかはありません。

そのT君が図書館に通いつめて毎日読んでいたのは**哲学書**でした。以前、**東京医科歯科大学**に合格したYさんも『哲学用語図鑑』『FACTFULNESS』といった**哲学書**や**教養書**に親しんでいました。

この2人が高校時代に図書館をどのように活用したかについては、図書館のホワイトボードに掲示してあります。(川辺)



【新入生ガイダンスを実施しました！】

新年度が始まり、新入生に向けてオリエンテーションを実施しました。

昨年度は、コロナの影響を受け、図書館ガイダンスを実施する事ができませんでしたが、今年度は、中学1年生5クラスと高校1年生11クラスの生徒の皆さんに図書館に来館してもらい、実施する事ができました。

各クラス、20分程度の時間の中で、簡単な図書館利用の説明後に、借りる練習も兼ねて、図書館の中を歩きながら、興味を持った本を1冊選んでもらい、カウンターで貸出を行いました。借りる本を決めて貸出手続きを済ませた生徒の多くは、時間になるまで閲覧席に座って、静かに読書の世界に浸っていました。また、「学校説明会で見学に来た時に、あの棚にあった〇〇という本は、どこにありますか?」という質問や、貸出の手続きの際に、「この図書館が気に入って、明星に入学しました!」という声ももらいました。図書館や本に対する関心が高いことが伺えて、大変嬉しくなりました。

これからも、図書館スタッフ一同、居心地が良くて大好きな場所と言ってもらえるように、より良い環境を整えていきたいと思えます。生徒の皆さんの来館をお待ちしています!(司書)



【お試し読書で学級文庫を選ぼう！ 新中1生】

新入生のオリエンテーション(図書館ガイダンス)に続いて、中学1年生には「お試し読書で学級文庫を選ぼう!」というテーマの授業が、図書館で行われました。学年主任の佐藤育義先生から、新中1生にたくさん本を読んでほしいとのお話があり、そのきっかけ作りとして、今年度初めて実施しました。

「お試し読書」とは、あらかじめ用意された本を何冊か、少しの時間読んでみて、どう思うか、まさに読書をお試ししようというものです。今回は私たち司書が選んだ本を1人に3冊、10分間ずつ読み、2分で感想などをシートに書いてもらいました。まず、机の上に用意された2冊を読み、その後、面白いと思った方の本を隣の人に渡し、今度はその本を読みます。シートには学級文庫に必要なか不要か〇をつける欄を設け、〇の数が多い本は自分たちのクラスの学級文庫に選ばれます。

生徒の皆さんは席に着くと、目の前の本に興味津々だったり、「怖い話はいやだ〜」と戸惑ったりと反応は様々でしたが、開始の合図があると静かに本を読み始めました。10分後の終わりの合図があってもまた続きを読みたそうな生徒もいて、5クラスとも熱心に取り組んでくれました。

お試し読書で読んでもらう本は、「入学後、本を好きになるかどうか」、こちらもお試しかされているようで、プレッシャーを感じながらも、中1生に読んでほしい本、面白そうな本、読み易い本など、約120冊を選びました。3冊とも学級文庫に不要とされるとショックでしたが(ひとりだけいました☹️)、概ね好評だったようで、1クラス30冊、クラス全体がジャッジした学級文庫ができました。

佐藤先生からも読書の力(速読、読解力、要約力など)はすぐにつくものではなく、今から種をまいて6年後に花が咲く…というお話がありました。中1生には朝読書の時間を中心に、じっくりと読書の力を育ててほしいです。また、今年度は中学・高校併せて19クラスから学級文庫の申し込みがあり、学校全体としても読書活動が活発になってきています。学級文庫が読書力向上の一助になればと思います。(司書)

